

第 85 回 幹 事 会

平成 2 1 年 1 1 月 2 6 日

日 本 学 術 会 議

第85回幹事会議事次第

日時：平成21年11月26日（木）14：00

非公開審議事項

- | | | |
|----------|-----|---|
| 1 委員会関係 | 提案1 | 国際委員会における分科会の委員の決定 |
| | 提案2 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定等 |
| | 提案3 | 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会の委員の決定 |
| 2 提言等 | 提案4 | 提言「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」 |
| 3 国際会議関係 | 提案5 | IAP声明「熱帯雨林と気候変動」 |
| 4 賞等の推薦 | 提案6 | フランス学士院ルイD財団賞受賞候補者の推薦 |
| 5 その他 | | 国際学術団体への新規加入希望調査について
北海道地区会議主催学術講演会についての報告
総会時の指摘事項について |

審議事項

- | | | |
|-----------|------|--|
| 1 提言等 | 提案7 | 報告「畜産物のはたす役割（食肉、乳、卵、蜂蜜）」 |
| 2 選考関係 | 提案8 | 補欠の連携会員の選任の要望 |
| 3 団体等の指定 | 提案9 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| 4 国際会議関係 | 提案10 | 平成21年度代表派遣（平成22年1月～2月分） |
| 5 シンポジウム等 | 提案11 | 公開シンポジウム「メタボロミクスシンポジウム『メタボロミクス研究の最前線とメタボライトデータベースの役割』」 |
| | 提案12 | 公開シンポジウム「人類の時代・第四紀は残った」 |
| | 提案13 | 「物性物理学・一般物理学分野の大型計画に関するシンポジウム」 |
| | 提案14 | 日本学術会議北海道地区会議主催講演会 |
| | 提案15 | 国際極年2007-2008シンポジウム - 地球規模の変動現象と極域の役割 - |
| | 提案16 | 公開講演会「大学の教養教育に 授業科目『生活する力を育てる』を」 |
| | 提案17 | 公開シンポジウム「日本のジェンダー平等の達成と課題を総点検する—CEDAW（国連女性差別撤廃委員会）勧告2009を中心に |
| | 提案18 | 第24回環境工学連合講演会 |
| 6 後援 | 提案19 | 国内会議 |

その他

資料2

第85回幹事会（11月26日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	鈴村 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷲谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介

事務局長	竹林 義久
------	-------

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	1
3 審議付託等	2
4 賞等の推薦	2
5 委員会委員の辞任	3
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	4
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3 機能別委員会の開催とその議題	5
4 分野別委員会の開催とその議題	6
5 課題別委員会の開催とその議題	14
6 サイエンスカフェの開催	15
7 総合科学技術会議報告	15
8 慶弔	16

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
10 月 22 日 (木)	表敬/日加女性研究者交流事業 Prof.Kumacheva	金澤会長、唐木副会長
10 月 22 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
10 月 26 日 (月)	蘭イノベーションプラットフォーム有識者メンバーと CSTP 議員との意見交換会	金澤会長
10 月 26 日 (月)	鳩山総理主催晩餐会	金澤会長
10 月 29 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
10 月 31 日 (土)	サイエンスアゴラ 2009～地球の未来 日本からの提案 ～ シンポジウム「社会性の脳科学」	金澤会長
11 月 4 日 (水) ～7 日 (土)	World Science Forum 2009 (ブダペスト) Plenary Session にて講演	金澤会長、綱木次長
11 月 5 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	竹林局長
11 月 7 日 (土)	日本学術会議北海道地区会議学術講演会 (公立はこだて未来大学) 講演	鈴村副会長
11 月 12 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
11 月 12 日 (木)	天皇陛下御在位 20 年記念式典	金澤会長
11 月 13 日 (金)	天皇皇后両陛下御即位 20 年記念 宮中茶会	金澤会長
11 月 16 日 (月)	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会 (鹿児島大学) 挨拶	金澤会長、竹林局長
11 月 19 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
11 月 19 日 (木)	公開シンポジウム「科学技術におけるイノベーションの創出と人材育成～応用物理の目指す方向～」 開会挨拶	金澤会長
11 月 19 日 (木)	科学技術・学術審議会 基本計画特別委員会	金澤会長
11 月 23 日 (月)	公開シンポジウム「大学教育の分野別質保証に向けて日本学術会議からの報告」 挨拶	金澤会長

2 会長談話

我が国の学術研究推進の重要性についての会長談話

国費の無駄な投資を減らし、より適切な国家予算を作るための一つの方策として、現在、行政刷新会議における事業仕分けが進んでいます。この事業仕分けは国民に対してオープンな状態で行われていて革新的であり、国民から広く受け入れられている

ものと理解します。一方で、特に基礎科学や科学技術関連の項目についての厳しい判定を懸念する声も聞こえてきておりますので、この機会に中・長期的視野に立った学術研究推進の重要性について改めて述べたいと思います。

日本学術会議はすでに、「我が国の未来を創る基礎研究の支援充実を目指して」(平成20年8月)と題する提言を発出しておりますが、その中で、将来を見据えた基礎研究への投資こそが我が国が真の文化国家として世界的な学術の発展及び人類の福祉の向上に貢献するものであることを述べました。基礎研究を含む学術研究を大切にする心に支えられて、科学・技術を推進し、その成果を基に社会制度や意識改革を含むイノベーションを創出し、同時に次代を担う人達を育成することこそが、資源・エネルギーに乏しい我が国が先進国の中でプレゼンスを高め国際貢献を果たすことができるための唯一の道であると考えます。

科学・技術の成果は一朝一夕に成るものでなく、多くの研究者による実験、データ収集、解析・評価、証明など長期にわたる継続的努力の積み重ねによっています。また、多くの研究計画は多数の研究者の議論の積み重ねによって作られています。したがって、基礎研究への投資がたとえ短期間であっても大きく減少することは、研究を実際に担う人材の離散を生じるだけでなく、国際競争力の低下をも招きます。この状態からの回復は困難であり、仮に回復できるとしても、それまでに膨大な時間と資金が必要となり、国際間の大競争時代にあって国家的損失を招くことは明かです。

新政権が社会に吹き込む新風に対して、国民は大きな期待を寄せています。鳩山内閣は、総理を筆頭に理系出身の多くの閣僚を含み、科学・技術に深い造詣と理解を有するものと信じております。また、菅国家戦略担当・科学技術政策担当大臣は、来年度予算の柱として、雇用、環境、景気、子どもに科学・技術を加えた5つのKによって、景気回復からできれば成長の方向へつなげていきたいとの方向を打ち出しており、私達科学者も大いに期待しています。我が国として、是非人文・社会科学を含む基礎研究から開発研究に至るまでの広い意味での学術研究を重視し、国家百年の計を過つことの無いように心から願っています。

平成21年11月20日

日本学術会議会長

金澤 一郎

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
日本生態学会公開講演会「なぜ地球の生き物を守るのか? - 生物多様性条約が守る自然の価値」の後援	日本生態学会会長	第二部
日本地球惑星科学連合2010年大会	一般社団法人地球惑星科学連合	第三部
日本看護系学会協議会主催シンポジウム「看護キャリア発達に向けての学会の役割」の後援	日本看護系学会協議会会長	第二部

日本林業再生の道 Part V - 日本の森林を経営するのは誰か - の後援	森林・林業・環境アカデミー会長	第二部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	法と精神医療学会他	科学者委員会

4 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
フランス学士院ルイD財団賞	各部等	推薦あり
The Premi Internacional Catalunya 賞	各部	推薦なし
フランス学士院 2010 年度 Lefoulon Delalande 科学賞	各部	照会中

5 委員会委員の辞任

- 科学者委員会知的財産検討分科会 佐藤 学(平成 21 年 10 月 29 日付)
- 国際人権ネットワーク対応委員会 金澤 一郎、大垣 眞一郎、唐木 英明(平成 21 年 10 月 1 日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) **第三部拡大役員会** (第14回)(10月19日)
提言「日本の展望 - 理学・工学からの提言2010」(案)について
その他
- (2) **第三部役員会** (第1回)(11月13日)
シンポジウムについて その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) **日本の展望委員会 社会の再生産分科会 拡大役員会** (10月20日)
今後の進め方について その他
- (2) **日本の展望委員会 起草分科会** (第10回)(10月22日)
「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」(第一次案)の検討
「日本の展望 - 学術からの提言2010」(素案)の意見聴取手続きについて
今後の進め方について その他
- (3) **日本の展望委員会 起草分科会** (第11回)(11月12日)
「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」(最終案)の検討
各作業分科会提言・分野別委員会報告の査読のスケジュールについて
「日本の展望 - 学術からの提言2010」に基づく「勧告」(案)の検討
今後の進め方について その他
- (4) **日本の展望委員会** (第9回)(11月12日)
「第4期科学技術基本計画への日本学術会議の提言」(最終案)の検討
各作業分科会提言・分野別委員会報告の査読のスケジュールについて
「日本の展望 - 学術からの提言2010」に基づく「勧告」(案)の検討
今後の進め方について その他
- (5) **日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会** (第12回)(11月18日)
報告書(案)とりまとめについて その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) **科学と社会委員会** (第 8 回)(1 0 月 2 0 日)
「知のタペストリーシリーズ」について
Human Rights Network 関係
査読委員の選任について 科学力増進分科会報告について その他
- (2) **科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会** (第 9 回)(1 0 月 2 6 日)
学術の大型装置計画・大規模研究計画の取りまとめ素案について
今後の進め方について その他
- (3) **科学者委員会 知的財産検討分科会** (第 4 回)(1 0 月 2 9 日)
報告書 (提言) 案の審議 その他
- (4) **科学と社会委員会 科学力増進分科会** (第 10 回)(1 1 月 1 日)
サイエンスアゴラ 2 0 0 9 について サイエンスカフェについて
今期活動について その他
- (5) **国際委員会 日本・カナダ女性研究者交流分科会** (第 1 回)(1 1 月 1 3 日)
委員長の互選、 交流事業の概要等について、 平成 21 年度日本側派遣者の
選定について、 その他
面接及び書類審査の結果、派遣者は下記 2 名に決定した。
小栗 有子 (鹿児島大学生涯学習教育センター准教授・環境教育)
新堀 真希 (宇宙航空研究開発機構・研究員 (宇宙医学生物学))
- (6) **科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会** (第 10 回)(1 1 月 1 6 日)
第一次リスト案の検討・調整 報告書素案の構成と分担の検討 その他
- (7) **科学者委員会** (第 17 回)(1 1 月 1 7 日)
日本学術会議協力学術研究団体の指定について (各部回答分) 日本学術会
議協力学術研究団体の指定について (各部への検討依頼) 学術刊行物の指定
について (各部への検討依頼) 日本学術会議北海道地区会議主催講演会の開催
について (提案)
- (8) **科学者委員会 学術誌問題検討分科会** (第 7 回)(1 1 月 1 9 日)
報告書素案の取りまとめ
リーディングジャーナルに関するアンケート (案) について
今後の進め方について その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) **史学委員会** (第 4 回)(1 0 月 1 9 日)

各分科会の活動報告 「日本の展望」史学委員会報告について
「大学教育における分野別質保証」について その他

(2) **史学委員会 科学史上の重要理論の現代的影響検討分科会**

(第 3 回)(1 0 月 1 9 日)

公開講演会ポスター・チラシの配布先について
資料展示について 当日の運営体制について その他

(3) **哲学委員会** (第 5 回)(1 0 月 1 9 日)

平成 2 1 年度「哲学シンポジウム」(案) について
平成 2 2 年度「哲学シンポジウム」の企画について
日本の展望「哲学委員会報告」について 各分科会からの活動報告
その他

(4) **法学委員会 立法学分科会** (第 4 回)(1 0 月 2 1 日)

報告者：守屋 明 委員 今後の予定 その他

(5) **地域研究委員会 紛争解決・災害復興のための国際後援分科会**

(第 2 回)(1 0 月 2 3 日)

講演：在ニューヨーク国連 P K O 局初代政策・評価・訓練部長 中満 泉氏
今後の予定 その他

(6) **社会学委員会 社会福祉学分科会** (第 5 回)(1 0 月 2 6 日)

日本社会福祉教育学校連名大学院教育検討委員会のこれまでの活動と成果
報告 太田 義弘 先生
今後の進め方 その他

(7) **社会学委員会 福祉職・介護職育成分科会** (第 6 回)(1 0 月 2 6 日)

提言について その他

(8) **心理学・教育学委員会 教育の質向上検討分科会** (第 3 回)(1 0 月 2 7 日)

話題提供 「英国における教育（学校）評価」 志水 宏吉 委員
「フィンランドの教育（学校）評価」 渡邊 あや 特別講師
中間シンポジウムの内容や進行等に関して その他

(9) **社会学委員会 社会理論分科会** (第 4 回) およびグローバルゼーション

小委員会（第3回）、シミュレーション小委員会（第3回）、モダニティ
小委員会（第3回）合同会議（10月28日）

今期のテーマに関連しての今田委員、黒石委員、徳安委員、中井委員の報告
（各15～20分） 2010年秋のシンポジウムについて その他

（10）法学委員会 法学系大学院分科会（第4回）（10月29日）

「法学系研究者養成のあり方に関するアンケート」の実施について
法学系研究者養成の現状について

1）長谷川委員の報告

2）浦川委員の報告

今後の進め方 その他

（11）経済学委員会 ワーク・ライフ・バランス分科会（第2回）（10月30日）

これまでの活動報告と今後の実施計画について その他

（12）心理学・教育学委員会 脳と意識分科会（第4回）（10月31日）

「社会性脳」シンポジウムについて 22年度の計画について その他

（13）心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会（第4回）（11月1日）

心理士国家資格法案の心理学界の動向への対応

医療領域における心理士国家資格へ向けての分科会としての対応

その他

（14）地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP分科会
（第1回）（11月4日）

幹事の選出 国際対応の強化について 小委員会の設置について
今後の活動計画について その他

（15）地域研究委員会 人文・経済地理と地域教育分科会（第4回）（11月5日）

日本の展望・地域展望について 人口減少社会と地域に関する今後の活動
分科会の名称について 地理教育分科会関連 その他

（16）地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同 地理教育分科会（第3回）
及び学校地理教育小委員会（第1回）（11月5日）

今後の活動重点項目について

大学教育の分野別質保証のための参照基準について その他

（17）社会学委員会 社会変動と若者問題分科会（第4回）（11月9日）

6月6日のシンポジウムの反省 来年度の活動について その他

(18) 経済学委員会 資産市場とマクロ経済分科会 (第2回)(11月10日)
委員による報告 その他

(19) 地域研究委員会 国際地域開発研究分科会 (第4回)(11月10日)
今後の日本の国際協力の方向性
報告1) 山形辰史委員
報告2) 松岡俊二委員
その他(今後の予定)

(20) 哲学委員会 芸術と文化環境分科会 (第3回)(11月16日)
審議: 今後の活動ならびに来年度シンポジウム(第三部会: 環境学委員会
「環境思想・環境教育分科会」との連携)にむけて
報告: 「立山における<環境と文化>をめぐって - 環境思想と教育実践:
統合への試み」 米原 寛(富山県立山博物館館長)
その他

(21) 経済学委員会 現代経済政策史資料適正保存促進分科会
(第7回)(11月16日)
施設見学、日銀職員との意見交換 その他

(22) 地域研究委員会 地域情報分科会 (第2回)(11月20日)
日本の展望について 提言の内容の具体化に向けて
地域情報分科会の今後の活動について その他

第二部担当

(1) 基礎生物学委員会 (第3回)(10月19日)
大型研究計画について その他

(2) 農学委員会(第4回)・食料科学委員会(第4回)合同委員会(10月19日)
大型研究計画について その他

(3) 臨床医学委員会 呼吸器分科会 (第1回)(10月20日)
委員長、副委員長、幹事(2名)の選出について
第21期の活動方針について その他

(4) 農学委員会 風送大気物質問題分科会 (第5回)(10月22日)
提言に関する各委員への依頼事項の検討 提言案の検討
サイエンスアゴラへの対応について その他

- (5) **農学委員会・食料科学委員会合同 C I G R分科会**(第4回)(10月23日)
C I G R国際シンポジウム2011への対応 (1st Circular、
ロゴマーク、各種委員会、予算等の検討) その他
- (6) **臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会**
(第4回)(10月23日)
公衆衛生学会との共催シンポジウム討議の継続
各委員の主要学会との共催シンポジウム企画提案 その1
(第3回分科会での提案の議論継続)
各委員の主要学会との共催シンポジウム企画提案 その2 (新規提案分)
その他 (第5回分科会の日程と議題審議など)
- (7) **臨床医学委員会 免疫・感染症分科会**(第1回)(10月26日)
委員長、副委員長、幹事 (2名) の選出について
第21期の活動方針について その他
- (8) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会**(第7回)(10月27日)
シンポジウム (大学の教養教育に授業科目「生活する力を育てる」を) に
ついて 「日本の展望」健康・生活科学委員会 (親委員会) 報告書について
生活科学系コンソーシアムの活動 (論文発表会) について その他
- (9) **基礎医学委員会、健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会**
(第4回)(10月29日)
テーマ別に「現状と課題について」(審議事項)
1) 健康食品の問題
2) 社会経済環境と健康格差をめぐる問題
3) 公衆衛生大学院をめぐって
4) 医療従事者の労働時間等
5) 統計法改正その後の問題
6) その他
2009年度、2010年度・関連学会時日本学術会議シンポジウム
(審議事項) 公衆衛生関連学協会連合会のその後 (報告事項) その他
- (10) **薬学委員会**(第2回)(10月29日)
分科会の活動報告について 日本の展望・薬学委員会報告書案等について
今後の活動等について その他
- (11) **健康・生活科学委員会 看護学分科会**(第5回)(11月5日)
「いのちの教育班」今後の活動について
我が国のAPN制度 (教育制度含む) 検討

- (12) **臨床医学委員会 障害者との共生分科会** (第5回)(11月9日)
京極高宣先生による講義 各小委員会からの経過報告について その他
- (13) **健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会** (第5回)(11月9日)
シンポジウム(平成22年3月13日開催)の具体的な実施計画案の検討
その他
- (14) **基礎生物学委員会 IUBS分科会** (第2回)(11月12日)
第20回IUBS総会の報告 今後の活動方針 その他
- (15) **農学委員会・食料科学委員会合同 IUS S分科会** (第3回)(11月13日)
IUS Sホームページの開設に伴って 第9回ESAFS2009の報告
その他
- (16) **歯学委員会 歯学教育分科会** (第1回)(11月16日)
委員長、副委員長、幹事(2名)の選出について 今後の活動について
その他
- (17) **歯学委員会 歯科医療制度に関する検討分科会** (第1回)(11月16日)
委員長、副委員長、幹事(2名)の選出について 今後の活動について
その他
- (18) **歯学委員会** (第5回)(11月16日)
日本の展望・歯学委員会からの報告案について
日本学術会議総会報告について 各分科会からの報告について その他
- (19) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 動物科学分科会**
(第2回)(11月20日)
今後の分科会活動について その他
- (20) **臨床医学委員会 感覚器分科会** (第4回)(11月24日)
「学術の動向」の感覚器医学の特集案について
8月の市民公開講座のテーブル起こしと両学会の学会誌掲載について
ロードマップ中間検討会について その他

第三部担当

- (1) **情報学委員会** (第3回)(10月19日)

- 「日本の展望」の検討について（審議） 各分科会の状況報告（報告）
新分科会（デジタルコンテンツの Sustainability に関する
分科会）設置について その他
- （２）**機械工学委員会 機械工学企画分科会**（第５回）（１０月１９日）
活動報告（分科会等） 日本の展望について 今後の活動について
その他
- （３）**総合工学委員会 総合工学企画分科会**（第３回）（１０月２０日）
総合工学委員会の展望について
「日本の展望 - 理学・工学からの提言 2010」について
第４期科学技術基本計画に提案すべき緊急・重要課題について
各分科会からの報告 理学・工学系学協会連絡協議会について その他
- （４）**土木工学・建築学委員会 拡大役員会**（第６回）（１０月２１日）
分科会の活動状況報告 「日本の展望」について
関連学協会との連携について
全体会議（１２月１８日）に向けた活動について その他
- （５）**電気電子工学委員会**（第３回）・**電気電子工学企画分科会**（第４回）
合同会議（１０月２１日）
「日本の展望」取りまとめ状況報告と今後の対応
次回シンポジウムについて
電気電子工学のあり方検討の進めかたについて
各分科会の進めかたについて 委員の追加について その他
- （６）**電気電子工学委員会 通信・電子システム分科会**（第２回）（１０月２１日）
５月のシンポジウム報告 学術会議総会、電気電子工学委員会の報告
学術会議と学協会の連携について 今後の当分科会の取り組みについて
その他
- （７）**地球惑星科学委員会 COSPAR 分科会**（第２回）（１０月２６日）
COSPAR Award / Medal の候補者の議論
COSPAR 2010 年総会に向けて
COSPAR 本部からの情報（選挙など）
宇宙開発計画の動向 その他
- （８）**物理学委員会**（第６回）（１０月２８日）
各分科会からの報告 「日本の展望」の進展について
大規模大型計画について その他

- (9) 物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会
(第 2 回)(10 月 28 日)
IUPAP 総会報告 今後の分科会活動について その他
- (10) 物理学委員会 IAU 分科会 (第 7 回)・物理学委員会 天文学・宇宙物理学
分科会 (第 7 回) 天文学・宇宙物理学長期計画検討小委員会 (第 2 回)
合同会議
IAU 総会決議 : Astronomy for Developing
World (IAU Strategic Plan) についての日本としての
対応 その他 IAU 総会に関する報告と議論
IAU 分科会の体制 (天文学・宇宙物理学分科会の今後についてと一緒に議論)
長期計画の検討 その他
- (11) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第 5 回)(10 月 31 日)
「地球に生きる素養を身につける教育に関する提言」について
日本の展望について その他
- (12) 総合工学委員会 ICO 分科会 (第 3 回)(11 月 2 日)
光量子科学技術連携委員会について シンポジウムについて その他
- (13) 地球惑星科学委員会 IGU 分科会 (第 4 回)(11 月 5 日)
IGU 京都地域会議準備委員会について
IGU テルアビブ地域会議 2010 について
IGU との連携の強化について
「アジア太平洋地理オリンピック」及び「IGU 地理教育コミッションつくば
大会 2009」について 地理教育分科会について
地球惑星科学連合について IAG 小委員会について
ICA 小委員会について その他
- (14) 機械工学委員会 (第 3 回)(11 月 5 日)
年次報告 (各分科会報告) 日本の展望について シンポジウムについて
今後の活動について その他
- (15) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会
(第 2 回)(11 月 9 日)
第 59 回理論応用力学講演会における企画セッションについて
理学・工学系学協会連絡協議会について 日本の展望について
今後の活動計画について その他
- (16) 土木工学・建築学委員会 景観と文化分科会 (第 5 回)(11 月 9 日)

提言でとりあげる内容について 話題提供（進士先生）
その他

(17) 地球惑星科学委員会 SCOR分科会（第2回）(11月9日)

我が国の海洋研究に関する方向と将来
SCORワーキング・グループ提案の可能性 その他

**(18) 土木工学・建築学委員会 大規模地震災害総合対策分科会
（第5回）(11月9日)**

斉藤大樹特別委員より建築研究所の取組について講演
6のワーキンググループによる活動報告と意見交換
分科会委員からの意見・提案（任意） その他、国内外の情報交換など

(19) 電気電子工学委員会 URSI分科会（第3回）(11月10日)

URSI分科会の活動について
国際電波科学連合公開シンポジウム及び関連行事について
2010年アジア・太平洋電波科学会議（AP-RASC 10）の日本開催
について 各小委員会の活動について
URSIが主催する新しい国際会議について（継続） その他

(20) 地球惑星科学委員会 国際対応分科会（第4回）(11月13日)

各対応国際組織に関する報告 分担金値上げ問題について
国内問題に関する検討 その他

(21) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会（第4回）(11月16日)

話題提供：立山における「環境と文化」をめぐる
～環境思想と教育実践：統合への試み～米原 寛（富山県立山博物館館長）
今後の活動ならびに来年度シンポジウム
（哲学委員会 芸術と文化環境分科会との連携）に向けて その他

(22) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会（第6回）(11月17日)

「地球に生きる素養を身につける教育に関する提言」について
日本の展望について その他

**(23) 総合工学委員会 エネルギーと人間社会に関する分科会
（第4回）(11月17日)**

話題提供
1) 石田委員「原子力がもたらしたもの」
2) 小林委員「わが国における自然エネルギー（太陽光・風力）導入の可能性に
ついて（仮）」

今後の取りまとめ方について その他

- (24) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科会(第2回)(11月18日)
小委員会報告 「計算科学シミュレーションシンポジウム」について
その他

- (25) 化学委員会 分析化学分科会(第4回)(11月18日)
シンポジウムについて 意見交換 その他

- (26) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会(第3回)(11月19日)
経過報告 公開シンポジウムについて 提言について その他

- (27) 環境学委員会(第4回)(11月24日)
これまでの経過報告 日本の展望、環境学について
今後の活動について その他

- (28) 基礎医学委員会・総合工学委員会合同 放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会(第3回)(11月25日)
提言(案)「放射線作業者の被ばくの一元管理について」の検討
シンポジウム「放射線廃棄物の処理問題解決の途を探る」の提案について
医療現場での2重規制について 放射線影響研究の進め方について
その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 人間の安全保障とジェンダー委員会(第4回)(10月19日)
ヒアリング その他

- (2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 大学と職業との接続検討分科会(第10回)(10月27日)
今後の検討の方向性について その他

- (3) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 大学との接続検討分科会(第11回)(11月10日)
今後の検討の方向性について その他

- (4) 労働雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会(第3回)(11月17日)
現状と課題について - 各委員の専門的な見地からの報告(清水委員、小木委員、草柳委員、森岡委員、矢野委員) 調査の外部委託について

- 今後の審議の進め方について
- ・ 2010年5月シンポジウム等
- その他

- (5) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討分科会(第12回)・日本の展望委員会 社会の再生産分科会(第10回) 合同分科会(11月17日)
大学教育の分野別質保証の分科会報告書の原稿案について その他

- (6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会 拡大役員会(第1回)(11月17日)
公開講演会「大学教育の分野別質保証にむけて」について その他

6 サイエンスカフェの開催

- (1) 10月23日(金) 19:00~20:30
場 所: 文部科学省情報ひろばラウンジ
テーマ: イスラーム:「対テロ戦争」の10の誤解
講 師: 酒井 啓子(日本学術会議第一部会員
東京外国語大学大学院総合国際学研究院先端部門教授)
木村 茂光(日本学術会議第一部会員、東京学芸大学教育学部教授)

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

- 基本政策推進専門調査会
基礎研究強化に向けた長期方策検討WG(第9回) 10月29日
(1) 「国際競争力の強化を目指した拠点の形成」について
(2) 「基礎研究強化に向けた研究資金の改革」について
- 基本政策専門調査会(第2回) 11月16日
(1) 前回の議論の整理と論点案について
(2) 基本理念について
(3) その他(報告事項)

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

・	10月22日	* 会長出席
・	10月29日	* 会長出席
・	11月 5日	* 会長欠席
・	11月12日	* 会長出席
・	11月19日	* 会長出席
・	11月26日	* 会長出席予定

8 慶弔

○ 慶事

文化勲章

飯島 澄男	(名城大学教授)	第20、21期連携会員
速水 融	(慶應義塾大学名誉教授)	第20、21期(期の途中で辞任) 連携会員

文化功労者

審良 静男	(大阪大学教授)	第20期連携会員
古在 由秀	(群馬県立ぐんま天文台長、東京大学名誉教授)	第9、10、12期 第四部会員
谷口 維紹	(東京大学教授)	第21期 第二部会員
山崎 敏光	(仁科記念財団理事長、東大名誉教授)	第20、21期連携会員

紫綬褒章

中澤 高清	(東北大学教授)	第16、17、18期研究連絡委員
神野 直彦	(東京大学名誉教授)	第17期研究連絡委員、第18、19期 会員、第20、21期連携会員
宮園 浩平	(東京大学教授)	第19期研究連絡委員、第20、21期連 携会員
江頭 憲治郎	(東京大学名誉教授)	第18期会員
岡野 栄之	(慶應義塾大学教授)	第20期連携会員
中村 栄一	(東京大学教授)	第20、21期連携会員
米澤 明憲	(東京大学教授)	第20期連携会員、第21期会員
荒川 泰彦	(東京大学教授)	第17期研究連絡委員、第20期連携 会員、第21期会員
細野 秀雄	(東工大教授)	第20、21期連携会員
五條堀 孝	(情報・システム研究機構国立遺伝学研究所教授)	第20、21期連携会員
坂口 志文	(京都大学教授)	第20期連携会員

- 旭日章
- 旭日中綬章
 - 山本 修三 (日本病院会 会長) 第20、21期連携会員
- 瑞宝章
- 瑞宝重光章
 - 岩槻 邦男 (東大名誉教授) 第16、19期研究連絡委員、第17、18期会員、第20、21期連携会員
 - 鈴木 昭憲 (元秋田県立大学長) 第16期会員、第20、21期連携会員
 - 寺田 雅昭 (元国立がんセンター総長) 第16、17期研究連絡委員
 - 真崎 知生 (京大名誉教授) 第19期会員、第20、21期連携会員
 - 松原 謙一 (阪大名誉教授) 第18期会員
 - 瑞宝中綬章
 - 安藤 亘 (筑波大名誉教授) 第18、19期研究連絡委員
 - 石垣 春夫 (早稲田大学名誉教授) 第17期研究連絡委員
 - 稲葉 次郎 (元科学技術庁放射線医学総合研究所研究総務官) 第17期研究連絡委員
 - 岩崎 敏男 (元建設省土木研究所長) 第16期研究連絡委員
 - 右田 紀久恵 (大阪府立大名誉教授) 第17期研究連絡委員
 - 宇野 重昭 (元島根県立大学長) 第16、17期会員、第18期研究連絡委員
 - 大野 喜久之輔 (神戸大学名誉教授) 第16、17期研究連絡委員、第18期会員
 - 片山 恒雄 (元文科省防災科学技術研究所長) 第16、17期研究連絡委員
 - 河合 忠一 (京都大学名誉教授) 第16期会員
 - 木野内 清子 (大妻女子大名誉教授) 第16期研究連絡委員
 - 木村 茂行 (元文科省無機材質研究所長) 第20、21期連携会員
 - 竹内 雄一郎 (高崎経済大名誉教授) 第16、17期研究連絡委員
 - 出口 吉昭 (日本大学名誉教授) 第16期研究連絡委員
 - 中村 晃 (大阪大学名誉教授) 第16期研究連絡委員
 - 長谷 紘和 (元工業技術院地質調査所長) 第16期研究連絡委員
 - 原田 種臣 (早稲田大学名誉教授) 第15期会員
 - 松井 道夫 (元共立薬大学長) 第17期研究連絡委員
 - 松本 昭彦 (横浜市立大名誉教授) 第16、17期研究連絡委員
 - 松本 克己 (金沢大名誉教授) 第16期研究連絡委員

審 議 事 項

		頁
審議事項		
1 提言等	提案7 報告「畜産物のはたす役割（食肉、乳、卵、蜂蜜）」	1
2 選考関係	提案8 補欠の連携会員の選任の要望	2
3 団体等の指定	提案9 日本学会会議協力学術研究団体の指定	3
4 国際会議関係	提案10 平成 2 1 年度代表派遣（平成 2 2 年 1 月～ 2 月分）	5
5 シンポジウム等	提案11 公開シンポジウム「メタボロミクスシンポジウム『メタボロミクス研究の最前線とメタボライトデータベースの役割』」	7
	提案12 公開シンポジウム「人類の時代・第四紀は残った」	9
	提案13 「物性物理学・一般物理学分野の大型計画に関するシンポジウム」	11
	提案14 日本学会会議北海道地区会議主催講演会	13
	提案15 国際極年2007-2008シンポジウム - 地球規模の変動現象と極域の役割 -	15
	提案16 公開講演会「大学の教養教育に 授業科目『生活する力を育てる』を」	18
	提案17 公開シンポジウム「日本のジェンダー平等の達成と課題を総点検する—CEDAW（国連女性差別撤廃委員会）勧告2009を中心に—」	20
	提案18 第24回環境工学連合講演会	22
6 後援	提案19 国内会議	24

その他

7	
幹事会	8 5

提 案

報告「畜産物のはたす役割（食肉、乳、卵、蜂蜜）」

- 1．提案者 食料科学委員会委員長
- 2．議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3．提案理由 食料科学委員会畜産学分科会における報告を別添のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第四号の「報告」として取り扱うこと

8	
幹事会	8 5

提 案

補欠の連携会員の選任の要望について

- 1 提 案 者 第二部部長
- 2 議 案 ご逝去により退任した御船美智子連携会員の後任者の選任を行うこと。
- 3 提案理由 御船美智子連携会員のご逝去（平成21年2月11日）により、生活科学（家政学）分野の連携会員が不足し、健康・生活科学委員会生活科学分科会において、十分な審議が困難になったため、補欠の連携会員を選任する必要があるため。

（参考）

- 補欠の連携会員の選考手続について(平成21年10月1日第82回幹事会決定)

（抄）

- 1 退任する連携会員の専門分野に係る部は、幹事会に対して補欠の連携会員の選任を別紙様式1により要望することができる。
- 2 幹事会は、前項の要望について審議し、必要があると認めるときは、補欠の連携会員の候補者（以下「候補者」という。）の推薦を依頼する部を決定する。
- 3 会長は、幹事会の決定を受けて当該部に対し、候補者の推薦を依頼する。

9	
幹事会	8 5

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長

2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること

3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

○ 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本英米詩歌学会
- ・ 日本計算数理工学会

団体の概要

- ・ 日本英米詩歌学会
イギリス・アメリカ詩歌の研究を中心に、日本詩・短歌・俳句と世界の詩歌の研究、翻訳、情報交換、会員相互の親睦、および内外の詩人たちとの交流を目的としている。
- ・ 日本計算数理工学会
前身の境界要素法研究会から名称変更して発足した学会であり、計算力学や計算工学の分野の研究者及びエンジニアがフォーラムやシンポジウムなどの学会活動を中心に情報交換し、広く計算力学・計算工学の学術的发展と普及を図ることを目的としている。

10	
幹事会	85

提 案

平成21年度代表派遣について（平成22年1月～2月分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(派遣者の選考)

第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。

- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)総会	1月12日	4 日	ロンドン	唐木 英明 第二部会員 東京大学名誉教授	国際委員会 第1区分
		～ 1月15日		英国		
2	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)総会	1月12日	4 日	ロンドン	黒田 玲子 第三部会員 東京大学大学院総合文化研究科教授	国際委員会 第1区分
		～ 1月15日		英国		
3	国際問題に関するインターアカデミーパネル(IAP)総会	1月12日	4 日	ロンドン	土居 範久 連携会員 中央大学理工学部教授	国際委員会 第1区分
		～ 1月15日		英国		
4	第38回地質科学国際研究計画(IGCP)本部理事会	2月17日	3 日	パリ	波田 重熙 特任連携会員 神戸女子大学文学部	IUGS分科会 特別派遣
		～ 2月19日		フランス		

1 1	
幹事会	8 5

提 案

公開シンポジウム

「メタボロミクスシンポジウム『メタボロミクス研究の最前線とメタボライトデータベースの役割』」の開催について

- 1．提案者 薬学委員会委員長
- 2．提 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催：日本学術会議薬学委員会生物系薬学分科会、日本薬学会
- 2．日 時：平成22年1月15日（金）9：45～17：30
- 3．場 所：日本学術会議講堂
- 4．開催趣旨：

生体内のあらゆる代謝産物を主として質量分析計により網羅的、包括的に解析するメタボロミクス研究は、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス研究とは異なる情報を与えるものとして大きな期待を寄せられている。トランスクリプトームおよびプロテオームは、ゲノム情報が実行される流れの中の情報であるのに対し、メタボロームはゲノム情報実行の最終的表現型であり、メタボロミクス研究により、疾患特異的な代謝経路の同定、発症メカニズムの解明、疾患バイオマーカーの同定、あるいは有用微生物・植物の開発など、新しい視点からバイオサイエンス分野の飛躍的な発展が期待される。メタボロミクス技術を創薬標的などの新規探索システムとして活用するためには、質量分析計の性能向上に加え、代謝物・代謝経路を自動同定するシステムの開発や代謝物の測定値等のデータベースの構築も極めて重要である。本シンポジウムでは、動物、植物、微生物のメタボロミクス研究、並びにメタボライトのデータベース構築について、第一線の研究者により講演していただき、今後の方向性などを議論することにより、我が国における本領域を一層発展させることを目指す。

5．次第

9:45～10:00 挨拶

金澤一郎（日本学術会議会長、宮内庁皇室医務主管）

橋田 充（日本学術会議第二部会員）

- 10:00 ~ 10:45 生命システム情報統合 KEGG とメタボロミクス研究
金久 實（京都大学化学研究所バイオインフォマティクスセンター）
- 10:45 ~ 11:30 マススペクトルの公開および活用のための研究者コンソーシアム型データベース MassBank
西岡孝明（慶應義塾大学先端生命科学研究所）
- 11:30 ~ 12:15 ここ 10 年の糖鎖研究の進歩とそのデータベース化によるさらなる飛躍
成松 久（日本学術会議連携会員、独立行政法人産業技術総合研究所・糖鎖工学研究センター センター長）
- 12:15 ~ 13:45 休憩
- 13:45 ~ 14:30 脂質メタボローム解析の為にサーチエンジン Lipid Search とその構造予測型質量データベース
田口 良（東京大学大学院医学系研究科）
- 14:30 ~ 15:15 メタボリックフィンガープリンティングの技術開発と応用
福崎英一郎（大阪大学工学研究科）
- 15:15 ~ 15:45 休憩
- 15:45 ~ 16:30 最新のメタボローム測定法と生命科学への応用
曾我朋義（慶應義塾大学先端生命科学研究所）
- 16:30 ~ 17:15 植物のメタボロミクス研究 - 開拓と挑戦
斉藤和季（日本学術会議連携会員、千葉大学大学院薬学研究院教授）
- 17:15 ~ 17:30 まとめ
西島正弘（日本学術会議連携会員）

6．関係部の承認の有無：第二部承認

1 2	
幹事会	8 5

提 案

公開シンポジウム「人類の時代・第四紀は残った」の開催について

- 1．提案者 地球惑星科学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGS 分科会
日本学術会議地球惑星科学委員会 INQUA 分科会
- 2．共 催：日本地球惑星科学連合，日本地質学会，日本第四紀学会（予定）
- 3．後 援：なし
- 4．日 時：平成 2 2 年 1 月 2 2 日(金) 10 時 00 分--17 時 00 分
- 5．場 所：日本学術会議 講堂（〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34）
- 6．分科会の開催：なし
- 7．開催趣旨：

2009 年 6 月 30 日，国際地質科学連合（IUGS）執行委員会は第四紀を正式の地質時代として認め，その始まりを 258 万 8 千年前とする新しい定義を批准した．これにより長年，地質時代としての位置づけが不確定であった第四紀が正式な紀／系として認められた．また，その開始時期も，汎世界的な変化を認めることのできない 181 万年前から，地球規模の寒冷化・環境変動と中緯度地域に達する大規模な氷河の出現が顕著となる時期に変更された．第四紀は現在も継続する地球規模の激しい環境変動の中で人類が発生して進化してきた最新の地質時代である．地球表層に記録されている第四紀の環境変動に関わる膨大な情報は，近未来の地球環境を合理的に予測するための重要な資料として活用されている．新しい定義を確認し，最新の地質時代の持つ意味を改めて明らかにすることが本シンポジウムの目的の一つである．またこの新しい定義は，鮮新世の上限を変更し，長年使用されてきた古第三紀・新第三紀の呼称の存続にも関わっている．地学教育や応用地質，地質災

害など研究教育と一般社会に広く新しい定義を普及させ、かつ、日本の地質環境に調和した導入と展開を図るための議論も重要な目的の一つである。

8．次 第：

- ・「地球生命史研究からみた新しい地質時代の意義」 北里 洋
(日本学術会議第三部会員 (独)海洋研究開発機構 海洋・極限環境生物圏領域領域長)
- ・「層序学と地質年代区分：現状と問題点」 斎藤 靖二
(日本学術会議連携会員 神奈川県立生命の星・地球博物館館長)
- ・「第四紀定義問題の歴史」 奥村 晃史
(日本学術会議連携会員 広島大学大学院文学研究科教授)
- ・ほか 総合討論

9．関係部の承認の有無：第三部承認

1 3	
幹事会	8 5

提 案

「物性物理学・一般物理学分野の大型計画に関するシンポジウム」の開催について

- 1．提案者 物理学委員会委員長
- 2．議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催： 物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会
- 2．共 催： なし
- 3．後 援： なし
- 4．日 時： 平成 22 年 1 月 27 日（水） 9:45 - 18:00
- 5．場 所： 日本学術会議講堂
- 6．委員会等の開催： 物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会
- 7．開催趣旨：

物理学のうち物性物理学・一般物理学分野（物一分野）は、原子や分子からなる物質相の構造や性質を調べ、それらの背後にある基本原理を解き明かそうとする営みである。多様な物質群、多彩な性質を研究対象とする物性物理学では、個々の研究者の発想にもとづくスモールサイエンス的研究活動が基本となるが、近年では、放射光や粒子ビームなど大型実験施設を利用する研究の重要性も増している。また核融合試験装置によるプラズマ物理学や、スーパーコンピュータによる計算物理学など、大型施設を中心とした研究体制が必須の分野もある。

巨額の経費を伴う大型施設や大型研究計画について、コミュニティの総意を反映した計画策定と適切なファンディングが望まれるところである。本シンポジウムは、物一分野の大型計画について、その科学的意義を再認識し、我が国の現状と世界の動向を俯瞰することを通じて、互いの理解を深め、広い立場からその将来展望を議論するきっかけとしたい。

8. 次 第：

- 9:45 - 10:00 「開会挨拶，趣旨説明」
伊藤 早苗（九州大学応用力学研究所 日本学術会議第三部
会員）
- 10:00 - 10:30 「文部科学省からのメッセージ（仮題）」
依頼中 （文部科学省）
- 10:30 - 11:00 「磁場閉じ込め核融合とプラズマ物理」
伊藤 公孝（核融合研究所 日本学術会議連携会員）
- 11:00 - 11:30 「レーザーによる高エネルギー密度科学」
兒玉 了祐（大阪大学工学研究科）
- 11:30 - 12:00 「計算科学をめぐる状況」
寺倉 清之（北陸先端大学）
- 12:00 - 12:20 コメント及び自由討論
- 12:20 - 13:30 — 昼食休憩 — （昼食時に物一分科会を開催）
- 13:30 - 14:00 「中性子科学が目指すもの」
金谷 利治（京都大学化学研究所）
- 14:00 - 14:20 「J-PARC 超低速ミュオンによるミュオン科学の革新」
西田 信彦（東京工業大学理工学研究科）
- 14:20 - 14:50 「放射光科学の現状と将来（仮題）」
雨宮 慶幸（東京大学新領域創成科学研究科）
- 14:50 - 15:10 「次世代光源が物質科学に果たす役割」
腰原 伸也（東京工業大学理工学研究科）
- 15:10 - 15:40 「コメント及び自由討論」
- 15:40 - 16:00 — 休憩 —
- 16:00 - 16:30 「強磁場科学の最新動向と強磁場コラボトリ戦略」
野尻 浩之（東北大学金属材料研究所）
- 16:30 - 17:00 「物質開発研究と大型実験施設」
十倉 好紀（東京大学工学系研究科 日本学術会議連携会員）
- 17:00 - 17:20 「大型施設におけるスモールサイエンスと人材育成」
山田 和芳（東北大学原子分子材料科学高等研究機構）
- 17:20 - 18:00 「コメント及び総合討論」
- 18:00 「閉会挨拶」
家 泰弘（東京大学物性研究所 日本学術会議第三部会員）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

14	
幹事会	85

提 案

日本学術会議北海道地区会議 主催講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議北海道地区会議，北海道大学
- 2 後 援 北海道開発局，北海道経済産業局，北海道，酪農学園大学，産業技術総合研究所，
北海道農業研究センターほか
- 3 協 賛 北海道新聞社，NHK札幌放送局ほか
- 4 日 時 平成22年2月2日（火）13:30～17:10（予定）
- 5 会 場 北海道大学学術交流会館
- 6 概 要 （テーマ）

「北海道から発信するフードイノベーション」（仮題）
（開催趣旨）

科学技術は我々人間の日々の生活に大きな影響を与えます。北海道は，都府県にはない広い大地や豊かな自然に恵まれています。その北海道の特徴と科学技術とを活かして，わが国の食料生産を支える技術と産業とを大きく育てることが重要です。近年，安全で需要のある美味しい食料・食品に関わる科学技術や，農工商連携などの新しい取り組みが日本各地の活性化に成果を上げつつあります。この市民公開講演会では，北海道の食に関わる最新情報を紹介するとともに，日本の食料基地としての北海道のこれからの食料生産のあり方を考えます。

（プログラム）

13:30 - 13:40

開会挨拶 佐伯 浩 北海道大学総長もしくは岡田尚武副学長

第1部 講演「日本の食を支えるサイエンス&テクノロジー」

13:40 - 14:10 【特別講演】 食事を楽しんでいますか？

唐木英明（日本学術会議副会長，東京大学名誉教授）

14:10 - 14:40 農商工連携と建設農

米田雅子（日本学術会議連携会員，慶應義塾大学理工学部教授）

14:40 - 15:10 北海道米食味向上の奇跡

川村周三（北海道大学大学院農学研究院准教授）

15:10 - 15:40 植物工場の現状と新たな展開

松村 健（産業技術総合研究所ゲノムファクトリー研究部門リーダー）

第2部 パネルディスカッション「北海道の美味しさを丸かじり」

15:50 - 17:00

パネリスト

- ・ 石井智美（酪農学園大学酪農学部准教授）
- ・ 加藤 淳（北海道総務部行政改革局主幹）
- ・ 西邑隆徳（北海道大学大学院農学研究院准教授）
- ・ 船附稚子（北海道農業研究センター主任研究員）

コーディネータ：久田徳二（北海道新聞社 記者）

17:00 - 17:10

閉会挨拶 岸 玲子（日本学術会議会員，日本学術会議北海道地区会議代表幹事，北海道大学大学院医学研究科教授）

総合司会

野口 伸（日本学術会議会員，北海道大学大学院農学研究院教授）

1 5	
幹事会	8 5

提 案

『 国際極年 2007-2008 シンポジウム - 地球規模の変動現象と極域の役割 - 』
 (英語名称 : IPY 2007-2008 symposium - Global Change and Polar Science)
 の開催について

- 1 . 提案者 地球惑星科学委員長
- 2 . 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 . 主 催 : 日本学術会議 地球惑星科学委員会国際対応分科会
情報・システム研究機構 国立極地研究所
- 2 . 共 催 : 独立行政法人 海洋研究開発機構
- 3 . 後 援 : なし
- 4 . 日 時 : 平成 2 2 年 3 月 1 日 (月) 10 : 00 ~ 17 : 00
- 5 . 場 所 : 日本学術会議
 - ・ 講堂 (口頭発表用)
 - ・ ポスター展示については、講堂入り口付近を使用
 - ・ 会議室 2 部屋 (シンポジウム事務室、及び昼食・会議用)
- 6 . 分科会の開催 : IPY2007-2008 対応小委員会を開催 (12 : 30 ~ 13 : 15)
- 7 . 開催趣旨 :

国際極年 2007 - 2008 では、両極において国際的連携による様々な研究活動が組織的・集約的に展開された。生物圏を含めた地球規模の変動現象が顕著に捉えられ、極域研究の重要性はかつてないほど高まった。日本は国際極年に主導的立場で参加し、多数の観測計画に参画した。本シンポジウムでは、我が国の研究者が関連した観測計画について、IPY 公認プロジェクトを中心に国際極年 2007-2008 で得られた成果の報告・集積・情報交換を行なう。それらを踏まえ、ポスト IPY に向けた極域研究の発展の方向性について議論する。
- 8 . 次 第 :

10 : 00 ~ 10 : 05 開催の挨拶

佐藤夏雄（国際極年 2007-2008 対応小委員会委員長/

国立極地研究所・副所長/地球惑星科学委員会国際対応分科会委員）

10：05～11：35 第1部：国際極年を振り返って

基調講演 3 件 計 90 分（30 分×3）

- ・ 南極域における国際極年の研究活動

白石和行（国立極地研究所・副所長）

- ・ 北極域の陸域・海洋・大気研究（仮題）

大畑哲夫（海洋研究開発機構・プログラムディレクター）

- ・ 海洋-海氷域を中心とした両極の気候変動（仮題）

大島慶一郎（北大低温研究所・教授）

11：35～12：15 第2部：国際極年での研究活動報告（1）

（主なプロジェクトの紹介、20 分×2、No. は、IPY/IP0 公認番号）

- ・ 南北両極域から見る電離圏・磁気圏現象とその共役性（No. 63）

山岸久雄（国立極地研究所・教授）

- ・ 南極昭和基地におけるオゾン層変動総合観測（No. 99）

中島英彰（国立環境研究所・主席研究員）

12：15～13：30 昼 食 ・ポスター発表

（12：30～13：15 IPY 対応小委員会開催）

13：30～15：50 第2部：国際極年での研究活動報告（2）

（主なプロジェクトの紹介、20 分×7）

- ・ 北極大気中のブラックカーボンエアロゾルの起源・季節変動及び物理・化学特性（No. 32）

近藤 豊（東大先端研研究所・教授）

- ・ Arctic-HYDRA プロジェクト関連（No. 104）（仮題）

（海洋研究開発機構の代表者）

- ・ 北極域の海洋・海氷研究（JPACS、No. 345）（仮題）

（海洋研究開発機構の代表者）

- ・ 南極域の海洋研究、CAML 関連（No. 53）（仮題）

福地光男（国立極地研究所・教授）

- ・ 南北両極における環境変動への微生物学的・生態学的応答 -MERGE-（No. 55）

神田啓史（国立極地研究所・教授/

地球惑星科学委員会国際対応分科会委員）

- ・ 東シベリア・スタルハイアータ地域の雪氷環境変動（No. 37）

高橋修平（北見工大・教授）

- ・ 日本スウェーデン共同内陸トラバース観測（No. 152）

藤田秀二（国立極地研究所・准教授）

- ・ 南極セールロンダーネ山地における国際共同地学調査

外田智千（国立極地研究所・准教授）

15：50～16：00 休憩

16：00～17：30 第3部：ポスト国際極年へ向けての提言

基調講演2件 計60分（30分×2）

- ・ 南極昭和大型大気レーダー計画（No.9）

佐藤 薫（東大大学院理学系研究科・教授/
地球惑星科学委員会委員）

- ・ 北極海の酸性化（仮題）

川合美千代（カナダ漁業海洋省海洋科学研究所・研究員）

総合討論 30分

（パネルディスカッション形式、基調講演者5名＋司会）

17：30～17：40 閉会の挨拶

藤井理行（国立極地研究所・所長）

（海洋研究開発機構の代表者）

9．関係部の承認の有無：第三部承認

1 6	
幹事会	8 5

提 案

公開講演会「大学の教養教育に 授業科目『生活する力を育てる』を」の開催について

- 1．提案者 健康・生活科学委員会委員長
- 2．提 案 標記公開講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1．主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会生活科学分科会
- 2．後 援：生活科学系コンソーシアム（予定）
- 3．日 時：平成22年3月4日（木）13：00～17：00
- 4．場 所：日本学術会議講堂
- 5．開催趣旨：

豊かな質の高い社会の基礎は、より多くの人々が健康で質の高い生活を送ることである。成熟を迎えた現在の社会では、価値観が多様化しており、「規範となる生き方」はなく、個人個人が総合的な視野で自分自身がどのような人生を送るかを選択する必要がある。10代の後半（大学入学時）は、成人期の入り口にあり、これからの人生を見通して自分自身の生き方について考えるべき時期である。健康で健全な豊かな生活（QOLの高い生活）を作り上げていくための生活に関わる諸事を多面的に理解し、自身の生活の場で選択・実践していくことが必要である。また、大学で専門教育を受け、それぞれの分野で専門家として社会活動を行う場合にも、最も基礎となる人間の生活を考えることのできる総合的視点が必要である。

大学進学以前の生活に関する教育は、家庭科として行われており、小学校高学年から始まり、中学校、高等学校で行われている。小学校では、育てられる立場からの理解、中学校では自我の目覚める時期としての理解、高校では将来家庭を営む立場で教育が行われているが、その教育の実態は、広範囲の内容であること、授業数が少ないことなどで十分な効果を上げていない。もう一度、大学教育の初期段階で生活に係わる教育の機会を設けることの効果は大きいと考えられるので、教養教育科目として取り上げることが提案する。

授業内容としては、体と心の変化（生まれてから老年に至る体の変化、心と体の関

係、生活の管理と健康など）、人と人との関係（家族関係、社会人としての人との関係など）、社会の仕組みと生活（経済活動、社会保障、家庭経済など）、自然環境と人の暮らし（自然環境と子供の育ち、生活の高度化と自然環境など）、生活上の具体的問題（衣、食、住）など、を盛り込むことが考えられる。より充実した質の高い授業内容の構成を考えるために、それぞれの分野の専門家の見解を聞き、最新の情報を得るために数回の講演会を計画したいと考えている。今回は第1回目として開催する。

対象は、生活科学関連の教育・研究者、大学の教務および教養教育の担当者、生活科学を専攻する大学生・大学院生、および一般社会人を考えている。

6．次第

○開会の挨拶

13：00～13：05 片山倫子（日本学術会議会員、東京家政大学教授）

○挨拶

13：05～13：10 浅島誠（日本学術会議第二部長、産業技術総合研究所フェロー兼器官発生工学研究ラボ長）

○講演1 人の体の成長と変化（生まれてから老齢まで、体と心の健康）（仮題）

13：10～14：00 加賀谷淳子（日本学術会議連携会員）（予定）

○講演2 生活の管理と健康

-成長期からの骨の健康づくりと生活習慣の重要性-

14：00～14：50 塚原典子（日本学術会議連携会員、新潟医療福祉大学准教授）

（休憩）

○講演3 少子化の中の子どもの育ちと親としての経験

15：00～15：50 無籐隆（日本学術会議連携会員、白梅学園大学教授）

○講演4 長寿時代ー新しい生活のマネジメント

15：50～16：40 工藤由貴子（文部科学省教科書調査官）

○閉会の挨拶

16：40～16：50 渋川祥子（日本学術会議連携会員、横浜国立大学名誉教授）

7．関係部の承認の有無：第二部承認

17	
幹事会	85

提 案

公開シンポジウム「日本のジェンダー平等の達成と課題を総点検する—CEDAW(国連女性差別撤廃委員会)勧告2009を中心に—」の開催について

1. 提案者 社会学委員会委員長、科学者委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会、
日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会
2. 後 援：京都大学グローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」、東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」&東京大学社会科学研究所連携拠点、広島大学男女共同参画室、神戸大学男女共同参画推進室、大阪大学多様な人材活用推進委員会、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、女性学研究会、ジェンダー法学会、日本スポーツとジェンダー学会、日本女性学会(2009.11.11現在)
3. 日 時：2010年3月13日(土) 13:00～17:00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会：同日に合同分科会開催予定
6. 開催趣旨：

「21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付け」られた男女共同参画社会基本法が制定されてから10年。女性差別撤廃条約が採択されてから30年。日本のジェンダー平等はどこまで進んだのか。

2009年7月、国連女性差別撤廃委員会(CEDAW)において、日本の女性差別撤廃条約実施状況の第6回報告が審議された。日本審査の総括所見では、「条約のすべての条項を系統だてて実行するという政府の義務を果たすよう、あらためて求める」19項目にわたる包括的な勧告が行われた。前回2003年の審査で勧告された事項が、十分に取組みられていないことを遺憾として、前回の勧告の実行を求めるものである。その勧告にもとづいて、女性差別撤廃条約の採択から30年の間、日本でジェンダー平等がど

ここまで達成され何が課題なのか、をジェンダー研究の立場から理論的かつ経験的に総点検する。

議論では、19 項目の勧告を大きく 5 分野(国際条約、国内法、労働・雇用、性暴力、人権)に括り、各分野について、報告者に専門家の立場から、1985 年 CEDEW 批准以降の達成と現状、課題とその背景の分析、勧告についての対応と提言を明らかにしてもらう。

7. 次 第:

- (1) コーディネーター 上野千鶴子(東京大学教授・日本学術会議会員)
開会: 趣旨説明 天野正子(東京家政学院大学学長・ジェンダー研究分科会委員長)
メッセージ 福島瑞穂大臣(少子化、男女共同参画、食品安全、消費者行政担当)
- (2) 報告: 5 名(各 20 分→100 分程度)
 - 国際条約 伊藤和子(弁護士・国際人権NGOヒューマンライツ・ナウ事務局長)
 - 国内法 榊原富士子(弁護士)
 - 労働・雇用 竹信三恵子(朝日新聞)
 - 性暴力 牟田和恵(大阪大学教授・日本学術会議連携会員)
 - 人権 阿部浩己(神奈川大学教授)
- (3) 討論: 討論者 3 名(各 10 分→30 分程度)
 - 伊藤公雄(京都大学教授・日本学術会議連携会員)
 - 大沢真理(東京大学教授・日本学術会議会員)
 - 小宮山洋子(衆議院議員)
- (4) 討議: 80 分程度
- (5) 閉会挨拶: 小舘香椎子(日本女子大学教授・男女共同参画分科会委員長)

8. 関係部の承認の有無: 第一部承認

1 8	
幹事会	8 5

提 案

第 24 回環境工学連合講演会の開催について

- 1 . 提案者 土木工学・建築学委員会委員長
- 2 . 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 . 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会
- 2 . 共 催（予定）：(社)化学工学会、(社)環境科学会、環境資源工学会、(社)空気調和・衛生工学会、(社)高分子学会、○(社)資源・素材学会、(社)地盤工学会、静電気学会、(社)大気環境学会、(社)土木学会、(社)日本化学会、(社)日本機械学会、(社)日本建築学会、(社)日本水道協会、(社)日本セラミック協会、日本太陽エネルギー学会、(社)日本鉄鋼協会、(社)日本土壌肥料学会、(社)日本分析化学会、(社)日本水環境学会、日本リスク学会、(社)日本冷凍空調学会（50 音順、○印は幹事学会）
- 3 . 日 時：平成 2 2 年 4 月 1 5 日（木）～ 4 月 1 6 日（金）
- 4 . 場 所：日本学術会議講堂
- 5 . 委員会等の開催： 無
- 6 . 開催趣旨：現代社会が直面する多様な環境問題とそれを解決するための工学について、多様な分野を代表する多くの学協会に所属する一線の研究者が一同に会し、それぞれ異なる視点からの問題提供に対する討議と意見交換を通して、今後の環境工学が向かうべき方向性について考えるためのシンポジウムとする。
- 7 . 次 第：開会挨拶は、土木工学・建築学委員会から嘉門雅史会員が行う。
また、特別講演を、「異常気候への適応可能社会の構築（仮題）」と題して、土木工学・建築学委員会の寶 馨 連携会員が、また「資源循環型社会構築とその環境への貢献（仮題）」と題して材料工学

委員会の中村 崇連携会員が行う。

8 . 関係部の承認の有無：第三部承認

19	
幹事会	85

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
日本看護系学会協議会主催シンポジウム「看護キャリア発達に向けての学会の役割」 主催：日本看護系学会協議会 期間：平成 21 年 11 月 28 日 場所：幕張メッセ 国際会議場コンベンションセンター	日本看護系学会 協議会会長	第二部
日本生態学会公開講演会「なぜ地球の生き物を守るのか？ - 生物多様性条約が守る自然の価値」 主催：日本生態学会 期間：平成 22 年 3 月 20 日 場所：東京大学安田講堂	日本生態学会会 長	第二部
日本地球惑星科学連合 2010 年大会 主催：日本地球惑星科学連合 期間：平成 22 年 5 月 23 日～28 日 場所：幕張メッセ 国際会議場	一般社団法人日 本地球惑星科学 連合会長	第三部